

ロボテック戦略月次レター（2021年9月の振り返り）

ロボット関連企業の業績注視

サプライチェーンの混乱などで短期的な影響も。長期的には堅調な世界経済を背景に回復へ

9月の世界株式市場（MSCI ACWI、米ドルベース）は、月末にかけてボラティリティがやや高まり下落しました。

ロボテック戦略も、世界株式と同様に推移しました。日本の保有銘柄の株価上昇や円安進行がプラス寄与となりましたが、欧米の保有銘柄の株価下落がマイナス寄与となりました。



世界中でサプライチェーンの混乱が続いていますが、ロボテック関連企業は今年の9月の世界株式下落の背景としては、各国の中央銀行高官によるテーパリング（量的緩和の縮小）や物価見通しに関する発言に対する警戒感の他、中国の不動産大手恒大集団の経営危機を巡る問題などが挙げられます。9月には、FRB（米連邦準備制度理事会）は11月にもテーパリング開始の可能性を示唆し、欧州中央銀行（ECB）も債券購入の減額を打ち出しました。また、恒大集団については、巨額の利払い遅延が注視されています。

経済活動はグローバルに堅調さを保っているものの、新型コロナウイルスのデルタ株の感染状況やその影響については注視しています。これまでも述べてきた通り、先行き不透明感、原料価格や輸送コストの上昇に伴うサプライチェーンの混乱などの状況は続いているものの、ロボット関連などの企業は昨年のパンデミックの時よりも困難な状況にうまく対処する術を身に着けています。

世界経済を見渡してみると、北米の力強い成長が続いており、欧州も堅調で、日本も回復局面が続いています。これまで好調だった中国経済にやや陰りがみられますが、欧米や日本の成長がそれを補う形になっています。



サプライチェーンの問題が改善すれば、自動車製造なども通常に戻り、半導体関連企業もその恩恵を享受するとみられます。落局面はポジション積み増しの好機と考えています。

7～9月期の決算発表が10月半ば以降に本格化し、企業の利益水準が注目されます。原材料価格や輸送費、エネルギーコストの上昇が続いているため、減益など厳しい数字が出てくる可能性があります。しかし、サプライチェーン問題が解決すれば、全般的に堅調な世界経済動向を背景に利益水準も回復すると考えられます。

このため、当戦略においては、株価下落局面はポジション積み増しの好機と考えています。

日本の自動化関連銘柄のパフォーマンスは堅調

9月は、これまで堅調なパフォーマンスを続けてきたクアルコム、テラダイン、シリコン・ラボラトリーズなどの半導体関連銘柄がマイナス寄与となりました。足元はサプライチェーンの混乱の影響で自動車や電子機器の売上げが伸び悩んでいるものの、こういった問題が解消すればこれらの企業は5Gや産業・自動車向けの半導体に対する構造的な強い需要の恩恵を受けると見えています。

一方、産業用ロボットのファナック、倉庫自動化機器のダイフク、ファクトリーオートメーション機器のオムロンなど日本の自動化関連銘柄は堅調なパフォーマンスとなりプラス寄与となりました。

欧州のEVシフトで技術開発や設備投資に拍車

なお、大規模な設備投資需要でロボテック戦略が注目している電気自動車（EV）の導入が進んでいます。9月上旬に開催された欧州最大規模のミュンヘン国際自動車ショーでの発表は、大半がEV関連でした。独フォルクスワーゲン（VW）は低価格の小型EVを世界初公開し、仏ルノーは主力車種のEVを公開しま

した。独メルセデス・ベンツは、超高級車「マイバッハ」のEV化を発表しました。この背景には、欧州連合（EU）が2035年にガソリン車などの実質的な販売禁止を打ち出したことがあります。このため、欧州ではEVシフトが加速しており、関連の技術開発や設備投資に拍車がかかっています。

一方、トヨタ自動車は9月上旬、EV向け車載電池開発などに2030年までに1兆5,000億円を投資すると発表しました。EV向け電池コストの大幅な低減を目指しており、EVの需要拡大を後押しするとみられます。

EVやバッテリーの製造には大規模な設備投資を先行させることが必要なため、産業用ロボットやビジョンシステムなどを手掛ける企業は、これらの設備投資による受注で業績見通しの改善が見込まれます。

関連リンク

[産業用ロボット受注は堅調](#)

[日本の先行指標に明るさ](#)

[米ヘルスケア銘柄が堅調: ワクチン接種の更なる拡大で、手術支援ロボット市場は年後半にも正常時の水準に回復へ](#)

[日本の自動化銘柄が好調: ロボット受注など日本の産業活動の先行指標、世界経済回復の恩恵を受けて堅調に推移](#)

[ヘルスケアセクターが堅調: 新型コロナワクチン普及による経済再開に伴い、手術支援ロボットの需要拡大へ](#)

[半導体不足の影響は?: 影響は一時的、半導体企業やロボット関連業界には中期的に恩恵に](#)

[アクサIMのロボテック戦略について](#)

[フラムリントン株式: 注目のテーマ株式](#)

[ポートフォリオ・マネージャーが語るロボテック戦略への新型コロナウイルスの影響](#)

ディスクレーム

アクサIMについて

アクサ・インベストメント・マネージャーズ（アクサIM）は責任ある資産運用会社であり、長期的なアクティブ運用を行うことで、お客様、従業員、そして世界の繁栄を支援しています。当社の確信度の高い運用アプローチにより、代替資産クラスおよび伝統的資産クラス全般で最も良好な投資機会と考えられるものを追求しています。2021年6月末時点で約8,660億ユーロの運用資産残高を有しています。

アクサIMは、グリーン、社会、サステナブル市場における先進的な投資家であり、2021年6月時点で5,680億ユーロにおよぶESG（環境、社会、ガバナンス）統合済みのサステナブルおよびインパクト資産を運用しています。当社は、2050年までに、全運用資産における温室効果ガス排出のネットゼロ達成をコミットしており、株式銘柄選択から企業行動や文化に至る当社の事業にESG原則が組み込まれています。当社の目標は、社会と環境に有意義な変化をもたらしつつ、お客様に真に価値のある責任投資ソリューションをご提供することです。

2021年6月末時点で、アクサIMは20カ国26拠点において2,488名余の従業員を擁し、グローバルな事業を展開しています。アクサIMは、世界最大級の保険および資産運用グループであるアクサ・グループの一員です。

投資リスク及び費用について

当社が提供する戦略は、主に有価証券への投資を行いますが、当該有価証券の価格の下落により、投資元本を割り込む恐れがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動によっては投資元本を割り込む恐れがあります。したがって、お客様の投資元本は保証されているものではなく、運用の結果生じた利益及び損失はすべてお客様に帰属します。

また、当社の投資運用業務に係る報酬額およびその他費用は、お客様の運用資産の額や運用戦略（方針）等によって異なりますので、その合計額を表示することはできません。また、運用資産において行う有価証券等の取引に伴う売買手数料等はおお客様の負担となります。

【ご留意事項】

当資料は、アクサ・インベストメント・マネージャーズの情報提供に基づき、アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社が翻訳・作成した資料です。

当資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の有価証券その他の投資商品についての投資の勧誘や売買の推奨を目的としたものではありません。

当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成しておりますが、正確性、完全性を保証するものではありません。当資料の内容は、作成日時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に記載された運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の情報であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

当資料を事前の了承なく複製または配布等を行わないようにお願いします。

アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社

金融商品取引業者 登録番号: 関東財務局長（金商）第16号

加入協会: 一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人投資信託協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会、日本証券業協会

Ref-22702